

第13号

# はらんきょう レポート

はらんきょうの会

<http://harankyonokai.com>

私たちは一人ひとりの人権が尊重される  
平和な社会を目指して活動しています。



## ビキニ被ばく事件から 60年に思う

アメリカは1954年3月1日から5月14日まで、中部太平洋のマーシャル諸島のビキニ環礁とエニウェトク環礁で6回の水爆実験(キャッスル作戦)を行い、3月1日に爆発させた水爆ブラボーは広島に落とされた原爆の約1000倍の破壊力があったという。その爆発により強い放射能をあびたサンゴの粉(死の灰)が近海で操業中の第五福竜丸に降り注ぎ乗組員23人が被ばく、同年9月無線長の久保山愛吉さんが死亡した。しかし、第五福竜丸以外にも多くの漁船が被ばくし、放射能に汚染された多量の「原爆マグロ」が廃棄されたことはあまり知られていないのではないだろうか。そして同時に海が空が汚染されたことも。

朗読劇の台本を作るにあたり資料を読んでいくと、久保山愛吉さんの長女みや子ちゃんの当時の作文に「・・・あのじっけんさえなかったらこんなことにならなかったのに、・・・」とあ

った。この文章を目にしたとき、私は福島原発事故で廃業を余儀なくされた相馬市の酪農家菅野重清さんが堆肥小屋の壁に「原発さえなければ」との遺言をのこして自殺したことを思った。核実験がなかったら、原発がなかったら・・・これまでの平穏な生活を壊されることがなかった。この思いは広島・長崎で被爆した人たちも同じであろう。原爆さえなかったら・・・一人ひとりにはなんの落ち度もないのに、突然命を奪われ、また生き残った人々の人生が大きく捻じ曲げられてしまうことがなかった。

私は朗読劇に取り組むことで、被ばく者と一緒にするのではなく被ばく者一人ひとりの思いに向き合う機会を持つことができた。一人ひとりに向き合うことで被ばく者の痛みのほんの一端ではあるがその痛みを共有できるようになったと思う。

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ被ばく事件・原発事故、同じことが繰り返されることがないために、事実をしっかりと記憶し伝えることが大切だと考えている。

(加藤 記)

## 若い声

## 「あの夏の日々の記憶

## ヒロシマ ナガサキ そして」

## 朗読劇に参加して

大村小学校

6年 瀬尾 寿々那

私が、はらんきょうの会の朗読劇をやろうと思った理由は、友達にさそわれて、楽しそうだったからです。

でも、広島や長崎の戦争のことの朗読劇だったので、とても悲しい出来事だと思いました。これで、戦争のおそろしさをしたたのでよかったです。友達にさそわれて、はらんきょうの会に入れて良かったです。



武井 泉 (30代)

3年ほど前になります。『成人男性の声が欲しい』と加藤さんから声をかけてもらったことがきっかけでした。その年の夏の朗読劇へ出演させてもら



い、その後も毎年夏の朗読劇へ出演させてもらうようになりました。他の団体でも役者として舞台上がっていた僕としては『いい経験になるのかな?』と思い、出演することに決めました。

参加の回数が多くなるにつれ『こういう事は絶対に誰かが伝え続けなければいけない、風化させないために、そして二度と同じことが繰り返されないために』という思いがうまれてきました。

綺麗ごとではなく、たいそうな大義名分を掲げるでもなく『戦争』はとにかく『してはならない』、そう思うようになってきました。そして戦争という悲惨な現実があったにも関わらず、強く生き抜いてきた人達がいて、その人達があきらめないで頑張ってきたから今の日本があるのだろうか。という考えを持つようになりました。

次は、今を生きる僕たちの番です。僕たちが『今』をどう生き、子供達にどのようなかたちで『未来』を受け渡すことができるのか。

悲惨な過去があったという現実をきちんと直視した上で、未来に何を繋げるか、そんなことを考えさせてくれる朗読劇。きつとずっと僕のライフワークのひとつとして続けていくのだろうか、と思います。

大村小学校

6年 岡野 未由

私は5年生の時、初めてはらんきょうの会の朗読劇に参加しました。

6月、7月の練習は、スイミングを習いながらの参加だったことと、朗読は自分が思っていたより難しく、先生には何度も注意されましたが、なかなか上手にできずとても大変に思いました。何度も練習するうちに、上手にできるようになり、先生にも「上手になってきたね。」と言われ、とてもうれしく思い、あきらめずにがんばって良かったと思いました。

朗読劇に参加することにより、広島と長崎のとても悲しく、とても悲惨な状況を知り、被災した人たちの心の傷はとても深いものであり、ずっと消える事はないと思いました。私自身は経験がないため想像もつきませんが、二度と戦争はおきてほしくないと思いました。

朗読劇を通して、たくさんの人たちに忘れてはいけない出来事として伝えていけたらいいと思いました。





## 2014年度 全国フェミニスト議員連盟総会 記念講演に参加して

5月24日、東京YMC Aアジア青少年センターに於いて『愛と勇気と(I & YOU)おばちゃんが政治を変える』と題した谷口真由美さん(全日本おばちゃん党代表代行)の講演に参加しました。

お話のなかで、集団的自衛権も取り上げられ、おばちゃん言葉でわかりやすく説明していただきました。

私たちおばちゃんは、議論する場に慣れていないので、自分のわかりやすい言葉で表現することで、難しい問題でもより身近に感じられ、そこから日本の政治を変える力にもなっていくと感じました。(中野 記)

## お知らせ

男女共同参画・映画&トーク

### ★映画 潮風の村から ～ある女性医師の軌跡～

1年中潮風のふく渥美半島の小さな村で女性の心とからだに向き合い続けて60年の北山郁子が伝えたいことを今、語る!

### ★山上 千恵子監督のお話

- 日時 2014年9月28日(日)  
午後1:00～
- 会場 しもだて地域交流センター アルテリオ
- 参加費 無料

## 会員・賛助会員募集

会の活動を支えてくださるたくさんの皆様方の応援が必要です。  
一緒に活動してみませんか。

- 会費：一般 年3,000円、学生 1,000円
- 賛助会員：年間一口 1,000円

★連絡先：TEL 0296-52-2590 (加藤)

## 編集 後記

編集作業が終わろうとした日、河内町の金子由夫さんとその仲間が朗読劇を上演。という新聞の記事に目が止まった。この朗読劇は太平洋戦争末期、特攻隊員が出撃前に小学校を訪れ、この世の思い出にとピアノでベートーベンの月光を弾いたという実話を基にした朗読劇。特攻隊員の秘められた悲しい物語も、広島・長崎の原爆と同じ、命が奪われるのは本当に切ないと思う。戦争の悲劇はまだ終わっていないのです。この8月は、平和の大切さをみんなで考えていきたいものです。(T)

(編集委員：西田 京子・須藤 得夫)

## ★活動記録★

- 2013年1月26日 男女共同参画・映画&トーク  
(共催：筑西市)「山川菊栄の思想と活動」  
～姉妹よ、まずかく疑うことを習え～ アルテリオ
- 5月23日 ちくせい女性団体連絡協議会総会・  
講演講師 アルテリオ
- 6月28日 朗読劇出前公演 明野中学校
- 7月12日 高齢社会をよくする女性の会全国  
大会in茨城 出前公演 茨城県民文化センター
- 8月4日 朗読劇「あの夏の日の記憶」自主公演・  
はらんきょうレポート発行 イル・ブリランテ
- 10月6日 「フクシマ2011」映画&監督の話  
アルテリオ
- 11月2日 筑西市男女共同参画推進講演会  
パネル展示 スピカ
- 11月24日 筑西市主催「平和を考える市民  
映画会」朗読劇「あの夏の日の記憶」出前公演  
イル・ブリランテ

### 《協力事業》

- 8月24/25日 劇団明野ミュージカル公演協力  
イル・ブリランテ

### 《参加事業》

- 3月20日 うしく男・女フォーラム2013  
牛久市中央生涯学習センター
- 6月16日 平川和子さん講演会「身近な性と  
暴力」 小山市男女共同参画センター
- 7月5日 映画「ひろしま」東海村上映会&  
肥田舜太郎先生講演会 東海村
- 11月16日 ほっと・コンサートⅦ つくば市
- 11月2日 筑西市男女共同参画推進講演会  
スピカ
- 2014年3月7日 国際女性デー「院内集会」  
日本の国会に202030の実現を 参議院議員会館